

農業技術 プリズム

エダマメの黒マルチ栽培における省力化技術として、苗定植と収穫作業について既存の農業機械を利用した試験を行いました。

定植作業は、慣行の200穴セルトレーに1粒まきした苗の株間15センチの手植えと、128穴セルトレーに1セル2粒まきした苗を株間28センチで野菜半自動移植機を使用した場合を比較しました。その結果、移植機を使った場合の収量は、手作業と比較して同等からやや劣る程度でしたが、省力化を図れました。

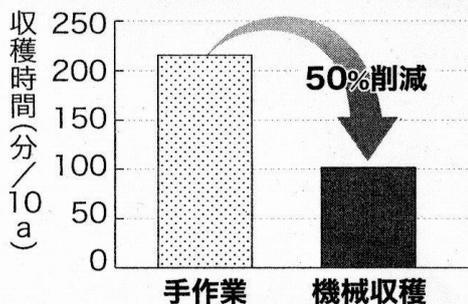
収穫作業は、県内のバレイショ栽培で普及している歩行型の茎葉処理機を使い、手作業との作業時間の比較と機械

エダマメ黒マルチ栽培の機械化

収穫時間は50%削減 さや割れなど課題も

収穫による障害さやの発生状況を調査しました。その結果、機械による収穫時間は、手

歩行型茎葉処理機利用によるエダマメの収穫時間の削減効果



作業と比較して約50%に削減できました。一方、機械収穫によるさやの割れなどの障害さやは、約7%発生しました。1セル2粒まき栽培では、1セル内で1粒しか発芽や生育をしない場合があります。そのため単位面積当たりの収量を高めるには、活着に適切な植え付けの深さの確保やかん水作業を行う必要があります。

(長崎県農林技術開発センター畑作営農研究部門干拓営農研究室 室長 小川哲治)